

平成28年2月8日

大阪市立デザイン教育研究所

平成27年度 学校関係者評価委員会

開催日時

平成28年2月8日（月）15:00～16:00（デ研展開催期間）

参加委員

大阪商工会議所東支部次長
大阪市立第二工芸高等学校長
大阪市立デザイン教育研究所後援会長

大阪市立デザイン教育研究所長
大阪市立デザイン教育研究所准教授（司会者）

学校関係者評価委員会 次第

1 研究所展覧会視察（司会者誘導）

15:00～15:30

2 会議

15:30～16:00（所長室へ移動）

議長選出

視察所感

『企業でもほしい人は、ディレクターなどのグループをまとめる人や、技術者としては映像表現ができる人で、展示を見る限りはそのタイプの人が育っている。』

『ツアーの説明員の一所懸命頑張っている姿が見られた。』

『今年度の「制作過程を見せる」は会社でもそのようにしている。説明は時代に合わせて変える必要がある。』

『デザインの活動をクライミングに例えたことが良い。』

1号議案 今年度報告

(昨年度の卒業生は就職希望者が100%就職)

今年度前期カリキュラム 結果の説明

春秋冬の3期に研究所の展覧会を開催した。デザインの制作過程をわかりやすく説明できる資料作りを通じて学習の振り返りに注力してきた → 一定の成果

◆1年

昨年度スケッチ力などの個人の力が低下したため1年前期プロジェクトに遅れが出た。 → 今年度は専任全員の指導体制(放課後の指導)を実施

1年前期終了時期に息切れする学生が出る → 後期はポートフォリオ1で分けて指導(グラフィック系に起業の話題・プロダクト系にモノづくり中小企プロジェクト・空間系にVMD小プロジェクト)

急に休みがちになる学生の対応

企画者としての自分に限界を感じ、グループで取り組むとストレスになる → 2年から表現者になるコースの設置を検討

『対応すべき内容が増えるだろうが、人事は動くのか。』

『学生に実力の差があるだろうから、いろいろ対応してくれることはありがたい。対応は大変でしょう。教員の体調が気がかりです。気を付けてください。』

『少人数のなかでも様々な学習がある。全員が助け合う態度もみられる。』

◆2年

研究所展覧会を春秋冬に企画・実施。

2号議案 来年度の計画検討

来年度前期カリキュラム 計画の説明

研究所の展覧会を春秋冬の3期に開催する。継続してデザインの制作過程をわかりやすく説明できる資料作りを通じて学習の振り返りに注力する。

加えて、地域連携型プロジェクト開始当初に、地域とプロジェクトの関係を注意深く探り、他のプロジェクトとの関係を持たせる。

→ プロジェクト課題にぶら下がり、積極的に構成する。

『利害関係者が多いと大変でしょうが頑張ってください。』

その他

『工芸高校との関係を付けるミーティングが必要。』